

祝・第72回卒業式

令和2年3月3日（火）、第72回卒業式が本校第一体育館で挙行されました。

今年は新型コロナウイルスの影響で学校が休校になった中、卒業生・保護者・来賓・教職員のみが参加し、時間を短縮しての卒業式となりました。



卒業生を代表して卒業証書を受け取る波多野瞭平君

在校生を代表してただ一人参加した伊井一馬君が送辞を述べ、卒業生を代表して柘植直子さんが答辞を述べました。



送辞・伊井一馬君



答辞・柘植直子さん

最後に卒業生が校歌を合唱し、それぞれの道へと旅立っていきました。

卒業生の皆さんの今後のご活躍を祈念いたします。

※このあと伊井君の送辞全文、柘植さんの答辞全文を紹介します。

送辞

やわらかに降り注ぐ日差しに、春の訪れが感じられるころとなりました。

本日、晴れて門出の日を迎えられた三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

思い返すと、先輩方はこれまで、中部高校生として進むべき道を指し示してくださいました。決して平坦ではない日々のなかで、先輩方はどんなときも諦めたり、逃げたりすることなく、懸命に困難に向き合ってこられました。そんな先輩の姿から我々は中部高校生のあるべき姿を学びました。

部活動は先輩方と深く関わることでできる大切な時間でした。先輩方はいつも、誰より早く準備をはじめ、部の柱として雰囲気盛り上げてくださいました。その姿勢は我々の励みであり、目標でもありました。どんな苦境でも諦めないこと、当たり前のことを当たり前に取り組むことの大切さを学びました。我々は先輩方の背中を見て少しずつ成長できたように思います。

また、印象的だったのは、先輩方と作り上げた体育大会です。毎日遅くまで綿密に計画を立てていたこと、体育大会全体のことを考え議論を進めていた姿。一方で、団員全員が楽しむことができるようにいつも笑顔で我々に向き合い、時には熱く指導された姿。そんな真剣な姿から、私たちも先輩方の熱い思いに応えようがんばることができました。当日は仲間を応援する声や笑顔がグラウンドに溢れ、全員が一致団結し、一人一人が全力を尽くしたことで最高の体育大会となりました。なかでも様々な困難を乗り越え、時に競い合い、時に苦労を共有した仲間が、団という枠組みを越え笑顔で合唱した校歌は、忘れることが出来ません。

さて、去年は、環境問題によって多くの災害がもたらされました。日本では昨年十月に発生した台風19号によって甚大な被害がありました。オーストラリアの森林火災では延焼面積が日本の国土面積の4分の1まで広がり、多くの生物の命が奪われられました。

これらの問題は、個人の力で解決することはできません。

こうした世界の中で我々に求められているのは、個人の知識や技術だけでなく、思考力や判断力、そして豊かな発想力や想像力でいかなる状況にも対応する力、協働する力だと思います。

先輩方はこの中部高校で過ごした三年間に、これらの力を十分に伸ばしてこられました。先輩方が、これからの日本や世界を担うリーダーとして活躍されることを強く祈念しています。

名残はつきませんが、お別れを申し上げる時となりました。先輩方と共に喜び笑いあったこと、悔しくて涙を流したこと、全てが私たちにとって大切な宝物です。

今、私たちにとって先輩方は目標であり、憧れです。しかし、いつの日か先輩方に追いつけるよう、努力をし続けていきます。先輩方が築いてきた本校の伝統を受け継ぎ、より良い中部高校を創っていくことを誓います。

私たちは先輩方の後輩としてこの学び舎でともに生活できたことを心から誇りに思います。本当にありがとうございました。

最後に、先輩方がこれからより一層活躍され、幸せで充実した人生を送っていかれることを願って、送辞といたします。

令和二年三月三日

在校生代表 伊井 一馬

答辞

例年になく暖かだった冬も過ぎ、日一日と明るくなっていく日差しに、春の到来を感じ心躍らせる今日の佳き日、私達二七四名はこの富山県立富山中部高等学校を卒業します。

思い返せば三年前の春、これから始まる新しい生活に、期待と不安の入り混じった気持ちを抱いて、入学式を迎えました。入学式でのピアノ伴奏なしで歌われる校歌を聞いて、中部高校の一員となったことを実感し、喜びを感じたことを今でも覚えています。

その喜びも束の間、入学式直後に立山での新入生合宿から始まった、予想を超える予習や課題の量、そして想像以上のスピードで展開される授業には、圧倒されました。特に一年生の四月は、毎日をどう過ごしていたのか思い出せないほどです。慣れない生活の中で、自分に合った学習方法確立するために苦労しました。しかしその分だけ、先生方による個性豊かな授業は、濃密で知的好奇心を存分に刺激するものでした。時に発展的な内容を学んだり、クラスメイトと討論したりすることで、より深く、物事の本質を理解しようとする姿勢が、自ずと育まれました。

運動が苦手な私にとって、中部高校での生活を語る際に、体育の授業でのサーキット・トレーニングの存在は、欠くことができません。入学して数か月は、特にこのトレーニングが辛く感じられ、サーキットの合間に通常の授業があるようにも思われました。それでも毎回真剣に取り組む続けることで、次第に運動への苦手意識が薄れていきました。そして何より、少しずつでも努力することで、かつて想像もできなかったレベルにまで到達できるということを実感しました。これに限らず、質・量ともに今までとは全く異なる経験を、悪戦苦闘しながらも乗り越え体得できたこと自体が、この三年間で得たかけがえのない収穫の一つです。

日々の授業に加え、体育大会・コーラスコンクール・文化祭・競技大会などの行事の度に、学校中が熱気に包まれました。

本校最大の行事である体育大会に初めて参加した際には、練習から本番に至るまで、体育大会にける先輩方の情熱に驚き、中部の体育大会という伝統の重みを感じました。参加したどの大会も心に残っていますが、特に雨の中で迎えた三年時の大会は、四つの団の順位が目まぐるしく入れ替わる接戦でした。三年生が中心となって準備を重ね、伝統を受け継ぎつつ、団ごとに新しい形が作り上げられ、最後には青空の下、感動的な閉会式を迎えました。

また秋のコーラスコンクールも思い出深い行事の一つです。どのホームも短い練習期間の中で、集中力と団結力を生かして練習に励み、高い完成度で歌声を響かせました。

こうして三年間を振り返ってみると、楽しい時も苦しい時も、周りにはたくさんの仲間がいました。共に教室で授業を受けたこと、放課後たわいのない話で盛り上がったこと、コーラス部のコンサートに向け練習したこと、励まし合って受験勉強に取り組んだこと、いくつもの思い出が高校生活三年間を彩っています。自身の意見をしっかり持ちつつ、異なる考えの人の存在を認め合い、真剣に語り合える仲間と切磋琢磨したことは、かけがえのない経験であり、次のステップへと進む私達を支えてくれるに違いありません。三年間本当にありがとうございました。

また、熱心に御指導いただいた先生方。学習上の質問から進路選択に至るまで、真摯に私達に向き合ってくださいました。先生方の下で学べたことは、大変幸せでした。感謝の念に堪えません。

そして、十八年間私たちを支えてくださった家族へ。時に反発することもありましたが、自立への一歩を踏み出そうとする今、常に私達を支えてくれたありがたさを身にしみて感じています。今まで

どうもありがとうございました。これからも私達を見守ってください。

共にこの学び舎で過ごした在校生の皆さん。皆さんには、この高校で過ごす時間がまだあります。それはかけがえのない時間です。その限られた時間をどうぞ有意義に過ごして下さい。時には途中で投げ出したくなることもあるかもしれませんが、皆さんの周りには、必ず支えてくれる先生方や仲間がいます。恐れず一歩ずつ前に進んでいってください。

さて、近年、グローバル化、地球温暖化など、複合的かつ地球規模の変化が、私達の足元でも感じられるようになりました。従来の価値観が覆されるような激しい変化の中で、確固たる足取りで未来に歩みを進めていく際には、時に困難を伴うこともあるでしょう。しかし、その時にもこの富山中部高校で過ごした三年間が私達を支えてくれると確信しています。私達は、この富山中部高校で過ごした日々を誇りに思い、これからも努力を怠ることなく、向上心をもって一日一日を積み重ねていきます。

終わりに、今年創立百周年を迎える富山県立富山中部高等学校のさらなる発展と、皆様の御健勝を心からお祈り申し上げて、お別れの言葉といたします。

令和二年三月三日

富山県立富山中部高等学校

第七十二回卒業生代表 柘植 直子